

令和4年度



港区立白金台幼稚園経営計画

園長 新井 智子

1 目指す幼稚園

港区立白金台幼稚園は、自然環境に恵まれ、木の温もりを感じさせる園舎で3年保育を実施している。都会の中の「森の幼稚園」としての気風を創りあげ、本年度創立49周年を迎える。幼児教育の基本理念「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」を踏襲し、幼児主体の教育を推進している。

幼稚園教育目標

人間尊重の精神に基づき、幼児一人一人に、自分のよさや可能性を信じ、多様な人々と協働しながら豊かな未来社会を切り拓くことができる力の基礎を培うため、次の目標を設定する。

やさしい子 よく考える子 元気な子

教育目標を実現する幼稚園像

- (1) 自分や人を大切にし、共に生きていくことの喜びや規律の大切さが学べる幼稚園
- (2) 主体的な取組の過程を尊重し、考えや願いを実現していくことができる幼稚園
- (3) 心身の健康が保たれ、遊びに没頭できる環境で、様々な体験ができる幼稚園

家庭で愛情いっぱい育てられた幼児にとって、初めての社会生活の場が幼稚園である。そこで同年代の多くの友達や先生に出会う。様々な個性や境遇の幼児が、幼稚園で出会い、関わることで、自分や人の存在の尊さや人が共に過ごすことの大切さを学ぶ。また、幼児の自立を支えていくとともに、年齢にふさわしい規律ある社会が営める園にする。

幼児が主体性をもち、様々な人やものに関わり、思いを実現できるようにする。その際、幼児が目的や目標をもって邁進したり、試行錯誤を繰り返したりしながら取り組む過程を大切にする。幼児が挑戦し、遊びを創っていく意欲や喜び、達成感が味わえる園にする。

園内外の環境を、安心・安全に整えるとともに、創意性を発揮して遊べるように配慮し構成する。心身共に健康で、幼児が生涯に必要な資質・能力を、体験を通して身に付けていくことができる園にする。

2 中期的経営目標と方策

文部科学省 幼稚園教育要領に則り、東京都教育委員会の教育方針及び港区教育ビジョン、港区学校教育推進計画に基づきながら、本園の教育課程を編成し、教育活動の推進に取り組む。

教育活動の充実

- 「やさしい子 よく考える子 元気な子」を目指した3年保育の教育課程及び年間指導計画を実践・検証・改善しながら教育活動を推進する。
- 幼稚園教育要領に示された、幼稚園教育において育みたい資質・能力 ①知識・技能の基礎 ②思考力・判断力・表現力等の基礎 ③学びに向かう力・人間性等 を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目を考慮した指導を推進し、小学校入学前教育の充実を図る。

幼児に育む資質

- 幼児一人ひとりに「やさしい子 よく考える子 元気な子」の資質を育む。
 - ① 生活に必要な自分のことが自分でできる子
 - ② 好奇心や探究心をもち 積極的にものごとに関わる子
 - ③ 友達やものや自然との関わりを喜び 大事にする子
 - ④ ものごとをよく考え「決める」「やる」「やめる」ができる子
 - ⑤ 考えたことをはっきりと話し 相手の話もしっかりと聞く子
 - ⑥ 試したり 創意工夫したりして 表現を面白がり楽しむ子
 - ⑦ 体を大切に し たくましくよく遊ぶ子

教員の指導力向上

- 幼稚園教育要領の趣旨及び幼稚園の重点目標や経営方針を教職員に浸透させ、情熱をもって教育活動に邁進する教職員組織を構築する。
- 教員一人ひとりの指導目標や指導の重点を明確にし、学ぶ意欲を高め、教員の資質向上を図る。

開かれた幼稚園

- 幼・小中一貫教育(高松アカデミー)の具体的な取組の推進と、互恵性ある連携を進める。
- 家庭・地域・幼稚園三者の信頼関係の確立と、地域の公立幼稚園としてのセンター的役割を果たす。

3 今年度の取組目標と方策

感染症による社会状況の推移を見て、安心・安全を最優先した教育活動を推進する。

都会の中の「森の幼稚園」として自然豊かな環境を生かし、多様な体験を通じて、幼児が様々な感覚を働かせ、好奇心や探究心をもって主体的に園生活に取り組むことができるようにする。

次年度 50 周年の節目。研究と実践の充実と発展をめざす

幼児の主体性の育成と園庭環境の活用を研究した実績を踏まえ、日々の保育に反映させ、教育の質の向上を図る。また、今年度の指導の課題を明確にし、研究を通して教師の資質向上を図る。「主体的に環境に関わり 豊かな遊びをつくる幼児の育成 ―遊びのプロセスに着目して―」の研究を基盤にし、教師個々の課題及び指導のプロセスに関する研究を充実させ、遊びのストーリーに着目した研究へと発展させる。

次年度 50 周年を目標にビオトープや生垣づくりなど、園庭環境を整え、充実させていく。

教育環境の充実

使命感と活気ある若手を中心とした本園の教員構成の特性を考慮し、具体的な指導目標や取り組みを示し実効性ある教育活動を展開する。教員の指導力向上と組織運営を以下のように推進する。教員一人一人が意識をもって経営参画できるように、具体的な実践例と実践の手がかりとなるキーワードを列挙する。

(1) 粘り強い指導ができる教員

基本的な生活習慣や集団生活に必要な約束など、幼児の発達段階に応じて、「気付く」「分かる」「できる」「守る」などの指導を工夫し、習慣化や自然な振る舞いに表れる「身に付く」までを責任をもち粘り強く指導する力量をもった教員を育成する。

具体的な実践例：幼児理解のための研究保育 研修会への参加

テーマごとのミーティング ビデオカンファレンス 等

(2) 明確な指導計画・週日案の作成

教師の指導は、遊びの中で幼児から多くの「気付き」を引き出せるか、教師の予想を超える遊びの発展へと導けるか、幼児一人ひとりがどれだけ多くの学びの経験ができたかが重要である。可塑性のある素材、自由に構成できる場、手応えのある材料、表現に適した用具、幼児が計画できる時間の工夫、柔軟な自然事象やものの取り込みなど、日々の環境を見直し、意図的、計画的に構成する能力を高め、教育活動に反映する。

具体的な実践例：研究の視点での実践記録 ドキュメンテーション

教材研究・研修の機会 課題に焦点化した援助 等

(3) 人やものを大事にする気風

一人ひとりの幼児の力の発揮には、互いに活かし合う学級集団の形成が必要不可欠である。幼児理解に努め、共感性や協働性の高い取組や遊びを展開させる。また、自然環境や園内環境の

活用、地域や関係諸機関の人材活用を通して情操教育を促進し、人やものを大切にする気風や態度を集団の中に定着させる。

具体的な実践例：主体的な環境整備 清潔感ある環境づくり 絵本コーナーの充実
壁面・掲示板の活用や装飾 園庭や屋上の管理 ビオトープづくり
教材や素材の自主的管理 季節行事や遊具の提示 等

(4) 教育内容向上のための発信力の強化

教員の幼児への指導はもとより、保護者、地域、関係諸機関に対して教育内容や実践の理解や協力を得るには、「伝える」ことが重要である。また、教職員間、PTAなど組織内で情報を共有するしくみをつくっていくことも必要である。教職員の発信力を高め、発信方法を工夫し教育への理解・協力を深める。また、発信により伝わったか否か確認することを常とする。

具体的な実践例：園・学年・学級だより等配布物の工夫 ホームページ・
YouTube・Twitter などの ICT 活用
保護者会・懇談会のもち方 降園時の伝達 等

(5) カリキュラム・マネジメントの推進

若手教師中心の教師集団である。経験の有無に関わらず積極的に仕事に参画させる。分散型のリーダーシップ実践を行い、園務分掌は担当ごとに全員がリーダーとしての役割を担うようにし、運営を任せていく。必要な力量をつけ、カリキュラム・マネジメントの推進を徹底し、責任と自主のもと主体的・行動的な園運営ができる、協働的組織集団を形成する。

具体的な実践例：園務分掌の推進 行事における推進委員会の設立 短時間の会議
ミニ連絡・報告会 計画的な共同作業日の設定 等

(6) 社会人としての自覚ある行動

教育公務員として服務規律を遵守して勤務するように、日常的・定期的に事例をあげ、研修を深める。また、気付いたこと、考えたことは互いに率直に声を掛け合うようにし、社会人としての見識をもった集団としての醸成を図る。

具体的な実践例：事例を用いた服務研修 ニュースや今日的課題の取込
声掛けによる意識向上 セルフチェック 等

(7) 研修への積極的参加

様々な研修を積極的に行い、知識や技術力を向上させる。園内でテーマやトピックスを設けて、月や週単位で管理職による定例研修会を実施する。また、区内外の講演会、研修会等で学んできた研修について、情報交換し、園内で内容について共有する。

(8) 「働き方改革」の推進

教育活動の円滑な推進のため、教職員の心身の健康の保持を目的に、区の施策に応じた「働き方改革」を推進する。個人の仕事へのやりがいとタイムマネジメントの視点から、効率よく仕事に従事できる体制をつくる。

具体的な実践例：ノンコンタクトタイムの実施 定時退勤の推奨 事務の合理化
会議の進行や時間の工夫 等